

結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン γ (クオンティフェロン)の追加説明

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本検査は、活動性結核の診断補助(X線所見や喀痰塗抹標本で結核を確定できず、他の臨床所見で結核を疑う者)、潜在性結核の診断補助(①定期外検診として、集団発生の際の感染症結核患者との接触者 ②感染性結核患者との接触機会の多い医療従事者)として使われます。

この検査には被験者の免疫能を確認するために、陽性コントロール(マイトジェン)が含まれていますが、これは非特異的にT細胞を刺激してIFN- γ を産生させるもので、T細胞の基本的な能力をチェックしています。この工程が検査結果として報告できるかの確認作業となります。この工程で陽性コントロールが基準値(0.5IU/ml以上)より低い場合は判定不可となりますのでご注意ください。

検査結果には(陽性・判定保留・陰性・判定不可)の4種類があり以下に簡単な説明をいたします。

記

【判定結果の考え方】

陽性	結核感染を疑う
判定保留	感染症リスクの度合いを考慮し、総合的に判定する
陰性	結核感染していない
<u>判定不可</u>	免疫不全・免疫抑制などの被験者はT細胞の活性低下、数の減少などで、十分なIFN- γ 産生をできないため、陽性コントロールが基準(0.5IU/ml以上)を満たしていない場合。 次の症例は判定不可の可能性があるので注意が必要です。 (HIV感染、AIDS、臓器移植などによる免疫抑制されている者、糖尿病、ケイ肺症、慢性腎不全、血液病、悪性腫瘍による免疫系低下の可能性のある者、免疫抑制剤により免疫抑制されている者など)

以上

